



二十六聖人

《今月の聖人》 聖マキシミリアノ・マリア・コルベ司祭殉教者

コルベは、ポーランドの織物職人の家に生まれ、信仰深く育てられた。16歳のときにコンベンツアルのフランシスコ会に入り、1918年に司祭となった。ローマで、6人の同志とともに「無原罪の聖母の騎士会」という信心会を創立して、聖母マリアに対する信心を広めることに尽くした。その後、ポーランドに帰って月刊誌『無原罪の聖母の騎士』を発行。

1930年ゼノ修道士ら5人とともに来日し、長崎で同信心会と印刷所を開いた。月刊誌『聖母の騎士』を発行するなど宣教活動に励み、多くの人びとに感化を与えた。『聖母の騎士』は現代でも多くの購読者を得ている。

1937年、コルベ神父はポーランドのニエポカラノフの修道院長に選任され、日本を去る。その後、第二次世界大戦の勃発により、ナチス・ドイツのゲシュタポに捕えられ、アウシュヴィッツ強制収容所に送られた。死刑を言い渡された妻子ある士官の身代わりを申し出て、餓死牢で注射を受けて亡くなった。

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」（ヨハネ 15. 13）というキリストの愛を実践した現代の殉教者である。



《コルベ神父のことば》

『憎しみからは何も生まれない、愛だけが創造する』

巻頭言：平和について

今月の『二十六聖人』の表紙は8月14日が記念日であり、私の霊名でもある、マキシミアノ・マリア・コルベ神父様を紹介しています。

コルベ神父様のことについては、皆さんも良くご存知とは思いますが、私自身は小学生の頃に長崎にあるコルベ神父様が創設した、聖母の騎士修道院でポーランド人のシスターから「洗礼を受けるならコルベ神父様の霊名にしたら」と言われたのがきっかけです。その後、司祭になり2016年にWYD(ワールドユースデー)でポーランドに行く機会が与えられました。

そのWYDでは、コルベ神父様が囚人の身代わりとなったアウシュビッツ強制収容所も見学することが出来て、私にとっては一生忘れることはありません。

コルベ神父様は、アウシュビッツ強制収容所で一人の囚人の身代わりとなり命を捧げました。聖書の中に「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」と書かれています。コルベ神父様はまさにこのイエスの教えを身をもって生き、人間の尊厳を破壊する悪の力に立ち向かっていきました。またコルベ神父様は「憎しみからは何も生まれない、愛だけが創造する」という言葉も残しています。

そのような中で、今年は戦後80年を迎えます。日本のカトリック教会は、教皇ヨハネ・パウロ2世が、1981年に来日し、被爆地の広島を訪れたときに、「平和アピール」を打ち出しました。「戦争は人間のしわざである」ことを明言し、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と訴えました。その教皇メッセージを受けて日本のカトリック教会は翌1982年から毎年、

「日本カトリック平和旬間」を行うようになりました。

また、2019年に教皇フランシスコが来日された時に、広島でも平和メッセージが出されました。「戦争のために原子力を使うことは、犯罪以外の何ものでもありません。核兵器を保有することも倫理に反します」と述べ核兵器の使用、そして保有も倫理に反すると強調しました。そして、「紛争の正当な解決策として、核戦争の脅威で威嚇することに頼りながら、どうして平和を促すことができるのでしょうか。真の平和とは武器を持たないこと以外にありえません」とも指摘し、核兵器による抑止力に頼る動きを強く批判しました。

この8月は改めて私たちもそれぞれ平和について考え祈る月としていきたいものだと思います。その中で聖書における「平和」とはどのような意味があるのでしょうか。それは、単に戦争のない状態を意味するものではありません。次のパウロの言葉は、平和がどのようなものであるのか示唆しています。「神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです。」(一コリント14・33)これは、パウロが集会において秩序と順番が保たれるように命じた際に、その根拠として述べている言葉です。ここでは、「平和」の反対語は「争い」や「戦争」ではなく、「無秩序」と言われています。「無秩序」とは、「混沌」、「空虚」、「意味のないこと」、「中身のないこと」といった意味です。したがって、「平和」とは、中身があって、しかも秩序正しく、その中でそれぞれの存在の持つ意味が完全に実現されている状態と言えるでしょう。今の世界を見てそれがどこまで実現しているのでしょうか。

このような平和の実現をわたしたちは目指しています。たしかにそれは時間のかかる歩みかも知れませんが、現実の世界に目を向けると、それは実現不可能なことのようにも感じられることでしょう。しかし、わたしたちはキリストの十字架の力によってこの平和が実現しうると固く信じています。この信仰に力づけられて、わたしたちも自分自身の十字

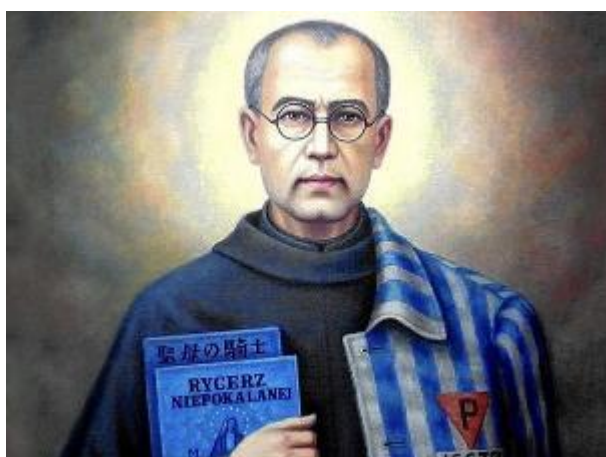
架を担って、平和のために尽力したいと思います。そして、コルベ神父様の姿を見ながら、私たちも命の尊さを認め、今の時代にあって平和を目指していけるように祈りを捧げて歩んでいきましょう。

マキシミリアノ・マリア・コルベ 内藤 聡

聖コルベの取り次ぎを求める祈り

いつくしみ深い神よ、
あなたは司祭殉教者聖マキシミリアノ・マリア・コルベを
けがれなきおとめマリアへの愛に燃えさせたせ、
靈魂の救いに対する熱意と隣人愛で満たしてくださいました。
聖人の取り次ぎを願うわたしたちが、
あなたの栄光のために、隣人への奉仕にたゆまず励み、
死に至るまで、御子の忠実な弟子になることができますように。アーメン。

(カトリック長崎大司教認可)



コルベ神父様の肖像画はたくさんありますが、表紙のコルベ神父様とこの絵のコルベ神父様を見つめ、その生涯を照らして、黙想してみるのはいかがでしょうか？



長崎を訪れると、聖母の騎士修道院の奥にある「聖コルベ記念館」で、当時のまま復元された聖コルベの部屋がありその様子を垣間見ることができます。また大浦天主堂へ登る坂道の途中には「聖コルベ館」があります。



2025 年 7 月 (7 月 6 日 開催)

【検討・報告事項】

1. 信徒意見検討

① 事務所に関するご意見(3 通)

事務所運営に関する意見がありました。それらは 7 月実施予定の事務所アンケートに書かれた意見とあわせて 8 月教会委員会で検討のうえ回答します。

② 「高齢や体の不自由な方と共に山手教会へ聖年の巡礼をしたい。(バス等)」

他に多くの行事が予定されており、団体巡礼を企画する余力がありません。残念ながら教会の全体行事としては実施しないことになりました。

2. 事務所アンケート

アンケート内容を検討しました。7 月 12 日からアンケートを開始します。

3. 2025 年バザー

バザー企画委員会から次のような提言がありました。これを受けて、7 月中にバザー実行委員の公募を開始します。

10 月末頃に古着と軽食主体のバザー、11 月末頃に古着以外の献品と軽食主体のバザーを行う。聖堂での販売は行わない。収益は年末福祉献金に充てる。

4. ナン助祭司祭叙階プロジェクト

・みんなで作った手書き新約聖書をナン新司祭に贈ることにしました。作り方の詳細は別途お知らせします。是非ご参加ください。

・日本への帰国後、早い段階で二俣川教会での初ミサを行っていただけるようお願いいたします。

5. 聖年巡礼指定教会バーチャル巡礼(仮称)

巡礼したくても出来ない方のために、自宅などで巡礼地の様子を視聴できる「バーチャル巡礼(仮称)」を企画しました。皆様が撮影した巡礼動画の投稿も歓迎します。準備が整いましたら改めてご案内します。

6. 親子室照明修理

親子室蛍光灯四台のうち一台が故障しており、建物管理から LED 化の提案がありました。7 月中に全四台を LED 照明器に更新する予定です。

7. 空調機更新

聖堂および信徒会館(1,2 階)の空調機は設置後 13 年経過して老朽化が進んできました。ここ数年のうちに取換えが必要で、それには千万円単位のコストがかかります。費用低減のため空調機グレードダウンを含めて更新の方法や時期を検討しています。

【各会報告】

1. 典礼委員会

- ・次回ベネディクションは 12/4(木)19 時より行います。8~11 月はいきません。
- ・聖年の祈りについて 8/10 主日ミサより始めます。ミサ 5 分前からを予定しています。なお、週日はいきません。
土曜日 17 時・日曜日 7 時：聖年の祈り
日曜日 10 時：公式聖歌「希望の巡礼者」
- ・水の祝別は偶数月の第 1 日曜日 10 時ミサの中で行います。

2. 教会学校

- ・6/22 初聖体のミサで8人子ども達がお恵みを受けました。たくさんのお祈りと教会全体でのお祝い有難うございました。
- ・7/26(土)サマースクール(宿泊なし)を行います。たくさん子ども達の参加をお待ちします。
- ・教会学校は7/20 終業、8月は休校です。

3. キリスト教講座

- ・「聖書の集い」ポスターを掲示しました。
- ・7/12,26 入門講座を開催予定です。なお、8月は夏休みです。

4. 財務委員会

10月中旬までに教区へ来年度予算を報告する必要があります。各会で昨年に比べて大きな変動が予想されるなら9月教会委員会までに財務に報告してください。

5. 広報委員会

8/14は内藤神父様の守護聖人でもある聖マキシミリアノ・マリア・コルベ司祭殉教者の記念日です。平和への気持ちを込めて『二十六聖人』8月号に特集を組む予定です。

6. 福祉委員会 7/20 福祉委員会開催予定

7. 建物管理委員会 前述の建物管理予算見込報告

8. 共同墓地委員会 7/6(日)臨時共同墓地委員会予定

9. ヨゼフ会

- ・6/21,22 練成会実施
- ・コーヒー光 6/15,29 実施、7/13,27 予定
- ・7/20 定例会予定

10. マリア会

- ・マリア会運営委員会 6/12 実施、7/10 予定、例会 7/20 予定
- ・パーティー係 6/22 初聖体パーティー準備

- ・アンナ会 6/23 活動、7/14,28 活動予定(8月は休会)
- ・ステラマリス帽子を編む会 6/20,26 活動、7/18,24 活動予定
- ・ボリビア支援グループ 5/23,6/15,6/18 会議実施、7/10 会議予定、5/30「ボリビアの風だより」編集印刷、6/28 ボリビアデイ準備、6/29 ボリビアデイ開催、7/27,8/31「のんびり日曜日」予定

11. 青年会

- ・6/8「わかちあいたいかい」を行い、終了後、今後に向けた話し合いをしました。外国籍の方々が参加しやすい工夫や祭日を避けた開催日などの案が出ました。来年に向けての更なる工夫を、青年会以外の方々と一緒に考えたいと思います。
- ・8/23,24に青少年デスク主催「中高生夏企画」(二俣川泊、二日目に磯子訪問)を行います。

12. インターファミリー

9/28(難民移住移動者の日)主日ミサでインターミサを行います。

13. 一粒会

- ・10/13 一粒会大会の参加者を募集します。貸切バスの利用希望者が20名以上いるならマイクロバスを用意します。
- ・「一粒会」の説明が7か国語に翻訳されました。7/29 インターファミリーのミーティングで配布の説明をします。

以上

聖年が、わたしたちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中に見出す助けとなり
わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。



聖年
特集
Vol. 7

希望を求める訴え

16 預言者たちのい
にしえのことばを響
かせて、聖年は、地上

の財は限られた特権的な人たちのためではなく、すべての人のためにあるということを思い起こさせます。富を所有している人は寛大でなければならず、自分の兄弟である困窮者たちの顔に目を向けなければなりません。わたしはとくに、水と食べ物に事欠く人々のことを考えています。飢えは、わたしたち人類というからだが負った恥ずべき傷であり、一人ひとりの良心を揺さぶります。わたしは今一度訴えます。「武器やその他軍事費に使われているお金で、国際基金を設立しようではありませんか。飢餓撲滅のために、そして最貧国の発展のために、そうして、その国の住民が暴力的解決や空振りの解決策に頼らなくてよいように、より尊厳ある生活を求めて国を離れる必要がないようにです(8)」。

聖年に向け、もう一つの心からの願いをお伝えしたいと思います。富裕国に向けてです。下してきた数々の決定の重大性を認識し、およそ返済が不可能な国の債務を免除する決断をしてください。それは、寛大さである以上に正義の問題です。わたしたちが気づきつつある新しいかたちの不公平によって、今日いっそう深刻化している問題です。「真の意味での「エコロジカルな債務」が存在し、なかでも世界の南北間におけるそれは大

きく、環境に影響する貿易の不均衡や、ある国々によって長期間行われてきた天然資源の過度の使用につながっています(9)」。

聖書が教えているように、大地は神に属しており、わたしたちは皆、そこに「寄留し、滞在する者」(レビ 25・23)として生きているのです。わたしたちが、世界に平和への道を準備したいと真に望むなら、不正義の根本的な原因を正すよう尽力し、不公正で返済不能な債務を帳消しにし、飢えている人々の空腹を満たすことです。

17 来る聖年の間には、すべてのキリスト信者にとって非常に重要な記念日を迎えます。まさしく最初の重大な公会議、ニケア公会議の開催から千七百年になります。使徒時代以来、司教たちは教義と規律に関する諸問題を取り扱うため、さまざまな機会に集いをもっていたことを思い起こすのは時宜を得ています。最初期の信仰の数世紀の間、西方においても東方においても教会会議(シノドス)が繰り返され、神の民の一致と福音の忠実な告知とを守り抜くことがいかに重要であるかが示されました。今日のキリスト教共同体が、福音化の急務によりふさわしく対応するためにますます必要な表現だと自覚す

る、シノダリティ(ともに歩むこと)の姿を具体化するため、聖年は大事な機会となるでしょう。洗礼を受けたすべての人は、おのの自分のたまもの(カリスマ)と役務もち、希望の多様なしるしが世界に神の現存を

あかしするよう、連帯責任を負っているのです。

ニケア公会議の使命は、イエス・キリストの神性および御父との同質性の否定によって、重大な脅威にさらされていた一致を守ることでした。325年5月20日、コンスタンティヌス帝の招集を受けた、およそ300人の司教たちが宮廷に参集しました。さまざまな議論の末、聖霊の恵みにより、わたしたちが今日主日の感謝の祭儀で唱えている信条について意見の一致を見ました。公会議教父たちはこの信条を、初めて用いることとなった「わたしたちは信じます(10)」という表現をもって始めることを望みました。それは、この「わたしたち」において、すべての教会が交わりの中にあり、すべてのキリスト信者が同じ一つの信仰を告白するということをあかしするためです。

ニケア公会議は、教会の歴史における一里塚です。その開催の記念日は、キリスト信者たちを、聖三位への、とりわけイエス・キリスト—神の御子、「御父と同一本質(11)」、愛のこの神秘をわたしたちに明かして下さったかた—への賛美と感謝のうちに一つになるよう招くものです。そしてニケア公会議は、諸教会すべてと全教会共同体に対する招きともなっています。目に見える一致へ向かって歩み続けなさい、イエスの祈りに完全にこたえるにふさわしい姿を倦まず求め続けなさい、との招きです。「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいる

ように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります」(ヨハネ17・21)。

ニケア公会議では、復活祭の日付についての議論もありました。これについては、今日でも立場の違いがあり、信仰の土台となる出来事を同じ日に祝うことの妨げとなっています。摂理的な事情により、その機会がまさに2025年に訪れます(訳注:2025年の復活祭は、西方でも東方でも4月20日になる)。これが、東方と西方のすべてのキリスト信者への呼びかけとなり、復活祭を共通の日とする一致に向かう決定的な一步を踏み出すよう期待します。心得ておくとうよいと思いますが、多くの人は過去の論争をもはや知りませんし、この問題について、なぜ分裂が続いているのかを理解していないのです。

- (8) 教皇フランシスコ回勅『兄弟の皆さん(2020年10月3日)』262(Fratelli tutti)。
- (9) 教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シーともに暮らす家を大切に』51。
- (10) 「ニケア信条」(H. Denzinger – A. Schönmetzer, *Enchiridion Symbolorum definitionum et declarationum de rebus fidei et morum*, n. 125 [A・ジンマーマン監修、浜寛五郎訳、『カトリック教会文書資料集増補改訂版』エンデルレ書店、1974年、27頁参照])。
- (11) 同。

夏休みは是非、旅先で聖年の巡礼指定教会へ！

ご存知の通り、横浜教区の聖年巡礼指定教会は司教座聖堂である、山手教会です。日本全国各地に多くの巡礼教会がありますので、是非この夏、訪れてみるのはいかがでしょうか？教会ロビーの掲示板には、日本地図と指定教会一覧が貼られていますし、中央協議会のホームページに巡礼教会案内の特設ページがございます。

右のQRコードをスマホのカメラで読み込むと中央協議会のホームページが見られます→





「教皇の祈りの意向」と「日本の教会の意向」について

「教皇の祈りの意向」は、全世界の教会が毎日の祈りの中でささげるために教皇が示すものです。「教皇の祈りの意向」には、「一般の意向」と「宣教の意向」の二つがあります。ゆるしの秘跡、聖体拝領、教皇の意向のために祈ることは、免償を受けるための通常の条件です。なお、1997 年から、日本のカトリック教会も、「教皇の祈りの意向」に加えて、「日本の教会の意向」を作成して、日本の教会のためにも祈ることを呼びかけています。教皇と日本の教会の意向のためにお祈りいたしましょう。

■ 8 月

教皇の意向： **共存**

共存することがより困難に見える社会が、民族的、政治的、宗教的、またイデオロギー的 な理由による対立の誘惑に負けませんように。

日本の教会の意向： **平和**

広島と長崎に原子爆弾が投下されて 80 年を迎えるにあたり、私たちが今も世界各地で続く戦争の愚かさを悟って、平和への道を歩む勇気を持つことができますように。

(カトリック中央協議会ウェブサイトより)

ヨゼフ会錬成会報告

コロナ禍を越えてから、ヨゼフ会の錬成会は 3 回目を迎えました。6 月 21～22 日の日程で定例・常宿の箱根の保養所に恐らく歴代最低人数の 9 人で集まることができました。これも高齢化の影響でしょうか。

今回は施設のボイラーが故障した為、急遽、保養所外の温泉施設を利用することとなり、予定外に露天風呂に入浴することができました。これも聖霊のお導きでした。



さて今年のテーマは墓についてです。

共同墓地委員会にお話を伺うことも企画しましたが、都合が付かなかった為、まずは共同墓地について資料のみで概要の把握を行いました。共同墓地については当初の計画の目論見と異なり、増築が必要になるなど一筋縄では物事が進まない様子を実感しました。

←宿の前で

また墓についての問題も人それぞれ異なることを強く感じました。実家の墓はどうするのか、自分自身がどの墓に入るのか、未信者の方は共同墓地に入れるのか、等々。

個人的には死んだら神の国に行くのだから、お墓のことで騒ぐのは生きている人間のエゴだと思っています。核家族化が進み、本家・分家といった考え方も薄れています。結局、墓参りをするのは基本的に自分が会ったことのある直系の親族に限られてくるのではないのでしょうか。お墓とは故人に思いを馳せる場所の象徴だと思っています。

但し、自らの信仰はカトリックにあることは間違いありません。今、自分のコアが何なのかを意識しながら生きていくことが大切だと思います。自分が教会を通じて信仰の証しをする必要があり、他者の力を借りることを前提にした信仰生活の現状維持に満足せずに、自力で具体的に何ができるのかを考え、共同体の維持をしていきたいと思っています。堪え性がないので、この先継続できる保証はありませんが・・・。

二日目は昨年と同様に小田原教会を訪れました。実は宿のルールが変わり、持ち込みや時間外の食事の提供ができなくなってしまったので李神父様を前泊でご招待できなかった処、“夜の嗜み？”に呼ばれなかったとご本人からクレームが入りました。“ソナンドナイセイチュウネン”。いっそ小田原教会に泊まれとのご指導がありましたので、“来年八善処スル所存デゴマイマス”。



われわれは残念ながらカトリックの司牧・信仰の継承に足らず、共同体の維持・発展には力足らずの状況です。今回の練成会は、墓に入る前（天国の門を叩く前）に今の自分の思い、言葉、行い、怠りを考え直す機会となりました。

神に感謝。
ミカエル M. T.

このページの写真はすべて、二俣川教会の元主任司祭、ペトロ李廷胤神父様が司牧されているカトリック小田原教会です

～ナン助祭の司祭叙階に向けて共に歩む～

Vol.3

★ナン助祭司祭叙階式参列ツアー★

司祭叙階式は8月4日(月)、ホーチミンから車で約1時間のところにある信仰の宣教修道会の本部聖堂で14名の兄弟たちと共に執り行われます。また、8月6日(水)はナン助祭の出身教会であるハノイから車で2時間ほどのところにある、ズイエンラン教会にて、初ミサが執り行われます。ツアー参加者19名はどちらのミサにも参列する予定で、初ミサの中では奉仕のお恵みもいただき、祝賀会での動画放映や歌のプレゼントも企画して準備に励んでいます。青年たちが準備してくれた、皆様からのメッセージアルバムも大切に持参します。無事の道中をみんなでお祈りいたしましょう。

★ナン助祭司祭叙階に向けての計画のご案内★

企画① ナン助祭、グエップ助祭の司祭叙階のための祈り

すべてのミサの5分前に捧げています。

企画② 霊的花束を捧げましょう

ナン助祭のための霊的花束を集めています。専用の用紙を聖堂後方に置きますので、お持ちください。

(8月4日叙階式当日まで)

企画③ ナン助祭への司祭叙階のお祝い品

ナン助祭への司祭叙階のお祝い品となる『手作り聖書』(みんなで聖書を書き写します)。なぞり書きですので、難しいことはありません。担当箇所は神様からのプレゼント。みんなで少しずつ書き、祈りのうちに新約聖書を完成させましょう。初ミサでお渡しします。



企画④ 9日間の祈り『ノベナ』への招き

叙階式までの9日間を共同体として祈る、「祈りの輪」へのお誘いです。7月26日からの9日間、毎日夜9時、主の祈り・アヴェマリアの祈り・栄唱・ナン助祭とグエップ助祭のための祈りを1回ずつ捧げます。

企画⑤ 8/4(月)司祭叙階式パブリックビューイング

8/4(月)、ベトナムで行われる司祭叙階式のYouTube中継を二俣川教会聖堂のスクリーンで放映します。10:00からです。ナン助祭が簡単な「しおり」を作ってくださいました。皆さんお集まりください。



※7月13日の稲川神父様の講話は、こちらから聞くことができます。→



7月13日 稲川神父様をお招きして

テーマ『司祭を生み出す小教区のあり方～このお恵みにどのように応えるのか～』

日本カトリック神学院の院長、稲川圭三神父様がミサ司式と講話のためにお越し下さいました。これは「ナン助祭の司祭叙階へ向けて共に歩む」と題して進められているプロジェクトの一つとして企画されたものです。ミサ後、120名ほどが聖堂で講話を聞くことができました。日本二十六聖人の一人、パウロ三木を霊名にいただいている神父様は、東京教区・本所教会のご出身。何とこの教会も二俣川教会と同じく日本二十六聖人に捧げられた教会であることに深い繋がりを感じました。



お話のポイントは『召命と祈り』でした。まず、ベネディクト16世が2009年から2010年の司祭年にあって、召命促進のためにと司祭に向けて語られた言葉を分かち合ってくださいました。それには3つのポイントがあり、①司祭はできる限り人を納得させられる形で司祭職を生きること。②人々が粘り強く召命の祈りを行うよう招くこと。③神が招いておられるのではないかと勇氣を持って若者に語りかけることでした。そして、ご自身の召命体験を話してくださいました。司祭へと導いてくださったのは、当時の本所教会の主任司祭であったアントニオ下山正義神父様。下山神父様は3度「神父になれ！」と稲川神父様におっしゃったそうですが、3度目は30歳の時。さらに時を経て「良いことだったら、するべきだ」というような気持ちとなり、9年勤めた公立小学校の教員をやめて、神学院に行く決心をされたとのこと。テーマである『司祭を生み出す小教区のあり方』に対するベネディクト16世の答えは「司祭に対しても信徒に対しても皆に対しても祈ること」と話されました。更に、マタイの山上の垂訓の「祈るときには」、そしてその前後に書かれている施しと断食について、この3つに共通する構造を教えてくださいました。すべて、人に見てもらおうとすると既に報いを受けているので、天の父の報いを受けられない。だから、誰にも知られないようにしなさい。そうすれば天の父が報いてくださるという構造。召命の祈りを小教区のみんなで熱心に祈ることも大切ですが、それと同時に、誰にも知られずに、誰にも気づかれずに、召命の与え主に向かって祈る。そのことそのものが、天の父の報いである。召命を生み出す小教区のあり方があるならば、誰にも知られず誰にも気づかれないところで、“御父と一緒にする”というその業そのものが、召命を生み出す祈りの根本にあるという言葉が印象的でした。

講話の後には、ロビーでの茶話会で多くの信者さんの名前をメモしながら(出会った方の名前を日記に記すそうです)、語らいが尽きませんでした。講話を聞いて感じたことは、ベネディクト16世の3つの言葉は、私たち信徒にも通じるもので、もっと御言葉が語り合われる教



会を目指し、召命のために祈り、若者たちと交わり、語り合うことではないかと思い、また、もっと祈りの時を、天の父との親密な時とするように促されているのではないかと感じました。皆さんはいかがでしたでしょうか。新司祭の誕生を間近で感じるお恵みをいただいた私たちが、お祝いと感謝にとどまらず、いただいた“気づき”を生かしていくことができますように。

6月29日、「ボリビアデイ」を開催いたしました。私たちがボリビアの子どもたちへの支援を始めてから、今年で20年を迎えます。この長きにわたる活動を継続できているのは、神父様をはじめ、信徒の皆さまのご理解とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

月に一度程度、主日ミサの後に「のんびり日曜日」と題し、さまざまな品物をご用意して、信徒の皆さまにご購入いただいています。得た献金は、ボリビアの子どもたちのために役立てられています。

今年の「ボリビアデイ」でも、ランチをご用意し、皆さまに召し上がっていただきました。また、ヨゼフ会によるコーヒー販売、アンナ会からの手芸品のご提供にも感謝申し上げます。温かいご協力により、会場は和やかな雰囲気になり、支援の輪が広がる一日となりました。



当日だけの壁新聞



今後も、この支援活動を大切に続けていきたいと考えております。ご関心のある方、共に活動して下さる方を心より歓迎いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

マリア会 K. A.

【編集後記】 昨年より数回を除いて、日本二十六聖人殉教者をお二人ずつ表紙に掲載してきましたが、本号では内藤神父様の霊名であるコルベ神父様を掲載し、特集しています。どうぞ表紙から最終ページまでもれなく『二十六聖人』8月号を味わってください。いよいよ、8月4日のナン助祭の司祭叙階の日が近づいてきました。私たち信徒の心からの祈りを沢山捧げて参りましょう。(F. N. 記)

『二十六聖人』の表紙は、典礼暦や時節を感じながら学びを深める新シリーズとして「今月の聖人」がスタートしました。どんな聖人たちが紹介されていくのでしょうか。お楽しみに。